

令和 6 年度 栃木県立さくら清修高等学校 学校評価結果

学校教育目標

- 知性に満ち、創造性に富む人を育てる。
- 心身ともに健康で、情操豊かな人を育てる。
- 郷土を愛し、国際的な視野を持ち、ともに生きる人を育てる。

本年度の重点目標

- 探究心と向上心を育む指導の充実
- 感性を磨き、逞しく生きる力の醸成
- 地域とともに歩み、社会に貢献できる人材の育成

評価
A・・・達成度80%以上
B・・・達成度80%未満～60%
C・・・達成度60%未満～30%
D・・・達成度30%未満

評価区分	評価項目	重点施策	評価結果	課題と対策（具体的方策や検証）	関係者評価
(1)	学力向上と進路実現に向けた指導の充実	①魅力的な授業の研究・実践により、生徒の学習意欲を高める。	B	○前年度に続き、家庭学習の充実、ICT機器活用の推進と授業力向上、及び学習指導全般における教員と生徒の双方向コミュニケーションをより活発にすることが課題。（校内外における授業研修・ICT活用研修、授業評価アンケートや学校評価アンケートで検証）	○家庭学習の習慣化に有効な手段を講じてほしい。 ○難関校合格実績等も学校全体が学習に取り組んでいる指標である。 ○ICT機器活用の弊害も念頭に入れて、柔軟な指導をすることが大事ではないか。
		②キャリア教育と課題研究の充実により、生徒の自己実現・目標達成を図る。	B	○教科・科目の学習内容を活かせる探究活動と、生徒一人一人の自己実現に資する教育活動の実現が課題である。（「産業社会と人間」及び課題研究に関する校内外研修等、校内発表会や学校表アアンケートで検証）	
(2)	自己有用感と自己管理能力を高めるための体制の充実	①挑戦や活躍の場を与え、達成感を体験させ、生徒の自尊心を育む。	A	○学校行事や特別活動において、より生徒の自主性や規範意識を涵養し、自尊心を育むことが課題。（既存の行事・活動の改善及び新たな行事・活動の企画・立案・実施、学校評価アアンケートで検証）	○学校祭等で生徒達が盛り上がるのは良いが、同時に来客をもてなす精神をもつことも大事であろう。自分たちだけが盛り上がりが良いという、お祭り騒ぎにならないようにしてほしい。
		②健康教育、安全教育、特別活動の充実により生徒の心身の健康を増進する。	A	○学校生活における生徒の自己管理能力（健康・安全等）の向上が課題。（防災訓練や交通講話等の充実、部活動等における安全講習、出席統計・保健日誌、学校評価アンケートにより検証）	
(3)	地域協働と社会参画意識を涵養するための連携の強化	①ボランティア活動の推奨や地域人材の活用により、生徒と地域を結ぶ。	B	○ボランティアや社会貢献の意義を涵養し、探究学習をより充実させる実践活動として定着させることが課題。（ボランティア参加人数、学校評価アンケート等で検証）	○地域に住む方々から、様々な支援を仰ぎ、生徒たちの成長・能力開発につなげることは重要である。その際、様々な分野で活躍している同窓生・同窓会を活用すると良いのではないか。
		②日頃の挨拶や清掃等を大切に、生徒のモラル向上と地域の信頼獲得を図る。	B	○日々の生活環境を良好なものに保つ意識向上が課題。（日々の清掃活動充実、HR活動や行事を通じた協力体制の構築、学校評価アンケートで検証）	
(4)	教育力を最大限に発揮できる学校づくり	①業務の効率化や協力体制の強化により、生活しやすい環境づくりに努める。	B	○DX化・合理化の推進と同時に、時間を割くべき教育活動の精選を進めることが課題。（授業計画・行事計画等の見直し、授業評価アンケートや学校評価アンケートで検証）	○結果・実績がすべてではないが、具体的な結果を見て検証しないと、組織の改善もその後の発展もない。
		②危機管理の視点に立つ教育計画の点検により、健康や安全の確保に努める	A	○安全や健康面に限らず、生徒情報の管理や外部対応も含めた危機管理意識の向上が課題。（情報管理と外部対応の共通理解学校評価アンケートで検証）	

